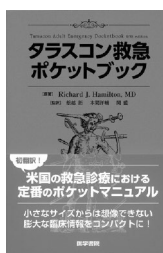


[評者]
藤谷茂樹
聖マリアンナ医大教授・救急医学



タラスコン救急ポケットブック

Richard J. Hamilton 原著

船越 拓, 本間洋輔, 関 藍 監訳

● A6 変型 頁 308 2018 年 6 月

定価：本体 2,600 円＋税

[ISBN978-4-260-03547-7] 医学書院刊

タラスコン救急の待望の日本語翻訳本が刊行された。評者はすでに国内でも多くの研修医が使用しているものと思っていた。それぐらい需要の高い書籍である。この監訳にかかわった先生方は、日頃北米式 ER 方式で、救急搬送を含む多くの救急患者を診療されており、訳者は、第一線で活躍をされている若手救急医からなっている。日本では、北米式 ER 方式を採用しているところはまだそれほど多くない。昨今の新専門医制度、地域包括ケアで、救急の在り方が変わろうとしている。今回のこの書籍が、このタイミングで出版されたことは、まさに好機が到来したかのようである。

この手のひらほどのポケットブックにこれだけの情報を詰め込めるかというぐらいの驚くべき情報量である。循環器、神経内科、呼吸器科、感染症、外傷、環境障害、中毒のジャンルが比較的多く記載されており、実践的に役に立つ内容が厳選されている。

実際に使用するには、ポケットサイズであるため文字が所狭しと記載されている状況で、どのように上手に活用をするのかという疑問が出るかもしれない。実は、評者は、米国の内科レジデントをしていたときに、総合内科&集中治療のタラスコンポケットブックを愛用していたので、その活用方法を説明したい。おそらく米国の学生・研修医も同様に使用しているものと思われる。

この小さなポケットブックは、基本的なことが記載されているが、全てのことがいつも頭の中に入っているわけではない。そのため、「あれ、これってどうだっ

たかな」という疑問は必ず臨床現場では生じる。まず、事前に大きなジャンルがどのようになっているか目次を押さえておき、どこに何が記載されているか、ページを流し読みしてうろ覚え状態にしておく。症例を経験し、また議論になった項目を毎回確認する。時間がない中でカルテ記載、オーダー書き、プレゼンテーションなどが要求されるため、自分のメモなども極細のペンで記載して、スピード重視の反復訓練をするように努める。そもそも、症例の曝露と反復訓練で、研修をすることで標準的な診療が確立する国が米国であるのでその需要にとっても合致している。例として、NSTEMI(非 ST 上昇型心筋梗塞)、STEMI(ST 上昇型心筋梗塞)、DKA(糖尿病性ケトアシドーシス)、HHS(高浸透圧高血糖症候群)などのコモンな疾患に対して、どのようなオーダーが必要かなどもコンパクトに記載されている。最初は、オーダー出しに関してもおぼつかない研修医も、毎回このポケットブックを見ながらオーダーなどをしていくうちに自然と診療の力が身につき、シニアレジデントに成長をしていく。

文字が小さいといわれるかもしれないが、海外でもこのサイズで多くの学生・研修医が使用しているので、対象をある程度小さな文字にも対応できる世代にすれば、機動力と情報を兼ね備えることができる良書となろう。

最後に、このようにとても実績のある書籍であり、これから ER 患者を多く診ることのある研修医や診療看護師・特定看護師にはぜひともお薦めの本である。